

デーリー東北  
2019年(令和元年)11月18日(月曜日)(21)

## 八学大男子バスケット部

# 大学、社会人チームと年間リーグ戦開催

# 八戸市内の競技力向上へ

八戸学院大男子バスケットボール部が今年5月から、八戸市内の他の大学や社会人クラブのチームを招き、年間を通してリーグ戦を行う「八戸トレーニングプレリーグ」を開催している。市内には日本バスケットボール協会に登録する社会人チームが2チームしかない

く、対戦機会が少ないのが現状。市内の競技力向上を目指して、リーグ戦を企画した同部の橋本監督(33)は「普段は戦うことのないチームが試合をすることで、強化につなげたい」と意義を強調する。

(上村公悟)



競技力向上のために互いに学び合いながら真剣勝負をする  
八学大と八戸クラブの選手=7日、八戸市

## 対戦機会増やし高め合う

リーグには八学大をはじめ、八戸工業大、根城TITANS(タイタンズ)など現在、6チームが参加。特に社会人チームにとってはこれまで、7月の天皇杯県予選や10月の全日本社会人選手権県予選といった限られた試合機会しかなかった。今後、協会に登録していない社会人チームや高校にも参加を呼び掛け規模を広げていく構想で、「さまざまな世代が交流するリーグにしたい」と橋本監督。

今月7日には同大体育館で、同大と社会人チーム「八戸クラブ」による対戦が行われ、真剣勝負を通して互いを高め合った。同クラブの豊善裕介主将(30)は「年間を通して試合ができるため、オフシーズンでもモチベーションを保つことができる。学生との試合も新鮮で互いに学び合えるいい機会」と話した。スピード感や娯楽性の追求から、毎年のようにルール改正が行われるバスケットボール。青森県内では審判不足が深刻な状況で、若手の育成や選手たちのルール理解もリーグの目的の一つとなっている。県大会や東北大会で審判を務めることができる、B級以上の資格を持つ審判を招き、公式戦さながらの試合を繰り広げる。

この日の試合で主審を務めた小野裕樹さん(44)は「次々と新しくなるルールにのっとり、正しく選手を導くことが大切だ」と話す。副審の笹井彪我さん(20)は「八学大男子バスケットボール部学生コーチ兼審判Ⅱは「資格を持つ審判から、学んだものを部に還元することが競技力向上につながると思う」と真剣な表情だった。

リーグについて橋本監督は「チームが強くなるのが第一だが、リーグの規模拡大に合わせさまざまな世代が競技を楽しみながら学び、地域に広がればいい」と語った。